

黒田武志住職に曹洞宗特別奨励賞

「留学僧育成」で功績

仏教学・宗学・教化学の中で大きな功績があった人へ贈られる曹洞宗特別奨励賞に昨年度、横浜・善光寺の黒田武志住職が選ばれ、十月三十一日に駒澤大学で賞状・賞金授与の伝達式が執り行なわれた。

同賞は平成元年に元駒澤大学総長の鏡島元隆先生が自らの退職金を基にした特定寄付に、宗務庁が助成を加え基金として設立された曹洞宗教学振興助成会が選定する褒章。黒田住職を推薦したのは駒澤大学名誉教授の佐々木宏幹氏、鶴見大学教授の





駒澤大学松田総長から表彰を受ける黒田老師

木村清孝氏の二人で、推薦理由を、駒澤大学の松田文雄総長が概略次のように説明した。

〈横浜善光寺留学僧育英会で、十七期にわたる百二人の若き学徒を国外に派遣し、また国内に受け入れ、仏教研究・修行の機会を与えて、仏教興隆に貢献した〉〈機関誌『成寿』の発行。さらに奈良康明(駒澤大学名誉教授)・東隆眞(駒沢女子大学学長) 両氏の編著『道元の二十一世紀』に黒田氏も「道元思想から見た現代社会へのアプローチ―海外留学僧派遣の意義―」と題する論文を寄せて、世界に活眼を開く人材育成こそ最も重要な課題と位置つけた。〉

祝賀会では東隆眞氏が祝辞を述べた。

その中で「鏡島先生はこの育英会を高く評価され曹洞宗奨励賞を黒田老師に受けてほしいと私的に身近な者に漏らしておられた」とのエピソードを紹介。さらに「受賞により黒田老師の偉業が国際的、宗門的に位置づけられた。檀信

徒や夫人の理解と協力の賜物で、幾多の難関を持ち前の明るさと行動力で突破された」と述べ、最初に功績を認めたのがスリランカ・サラナンダ財団で、平成十年に同国挙げて祝われたことを付言した。



最後に「日本仏教は学問的にも思想的にもトップレベルだが、その実践力とくに社会的活動は極めて低調であると指摘されてきた」として、黒田住職の受賞を「日本仏教の現代的証明になる」と讃えた。

受賞後に会場で記念撮影。左から奈良康明所長・黒田住職・松田総長・南澤道人監院

黒田住職は「人生の最高の喜びの一日」と謝意を表し、日本中を托鉢して歩いた若き日々を「その日を許されて生かされたことの恩返しをいつかさせていただきたいと、心にとめてきた」と感涙をもって回顧。同賞の賞金を「若い方の励みとして代わりに預かるだけ」と育英会に回して一人分多く採用することを約して、「世界中で勉強したいと思う方は育英会に応募していただきたい」と呼びかけた。



松田総長が推薦理由を発表



奈良康明所長のご挨拶

賞状

黒田武志殿

曹洞宗教学振興助成会は
あなたの横浜善光寺留学僧
育英会理事長としての業績が
曹洞宗教化の進展に寄与する
こと極めて顕著であると認め
茲に平成十三年度曹洞宗
特別奨励賞として賞金を贈り
これを賞します

平成十三年十月三十一日

駒澤大学総長 松田文雄



この一枚の表彰状は黒田老師だけでなく、横浜善光寺の、そして、もちろん檀信徒のみなさんの誇りです。